

松江市におけるコミュニティバス自治会輸送に関する検討

松江市役所 正会員 ○長岡 彩乃
 松江高専 正会員 浅田 純作
 島根大学 飯野 公夫
 松江市役所 安部 耕太郎
 (株)アテナ 舟木 禎久

1. はじめに

近年、人口減少や少子高齢化の進展にともなう利用者の減少により、交通路線の維持が課題となっている。維持が困難になると、路線の縮小・撤退が進むのは避けられず、公共交通のない地域いわゆる公共交通空白地域となってしまう。島根県松江市では、公共交通空白地域に住む住民の移動手段として、行政によるコミュニティバス（以下コミバス）の運行を実施した。しかし、収支率は低く財政負担が大きいことから、次の段階として、利用者の需要に応じて事前予約により運行するデマンド型交通を導入¹⁾した。しかし、運行維持の厳しさは改善されず、このままではコミバスさえもなくなってしまう危機にある。したがって、今後は地域住民が自ら運営し、地域の交通手段を確保し守っていく自主的な行動が必要となってくる。

そこで本研究では、「自治会輸送」という手法に着目し、松江市民を対象としたアンケート調査により将来の自治会輸送の実現の可能性を検討する。

2. 調査概要

本研究では、松江市と松江市公共交通利用促進市民会による松江市民を対象にしたアンケート調査において自治会輸送に関する質問を行った。調査概要は表1に示す通りである。

表1 調査概要

調査名	バスを中心とする公共交通についての意識調査
調査期間	平成28年8月29日（月）発送～10月上旬
調査対象	松江市に住居登録がある15歳以上の市民（中学生を除く）を母集団とし、無作為抽出により10,000人を選定
調査方法	郵送による配布・回収
有効配布数	10,204人
有効回答数	4,010人
有効回答率	39.3%

3. 自治会輸送に対する意識について

本研究では、自治会輸送の実現の可能性について、「コミバスがなくなる危機感を持っているか」、「自治会輸送は必要であると思うか」、「実際にどんな協力ができるのか」の3つの視点から図った。図1, 2, 3 はそれぞれアンケートの集計結果である。危機感を少なからず感じている者が約8割という結果に対して、自治会輸送の必要性を感じている者は約6割であった。この結果には、コミバスの必要性を感じ、維持が危機的状況にあることを認識はしているが、自治会輸送とまではまだ考えていない状況が伺える。また、コミバス利用者が少ない状況にあっても、何らかの形で協力できる者は約7割であり、将来における「自治会輸送」の可能性を示唆しているものといえる。そして、協力意識の有無には自分が利用しているか否かではなく、地域のためといった意識が関係していることが考えられる。

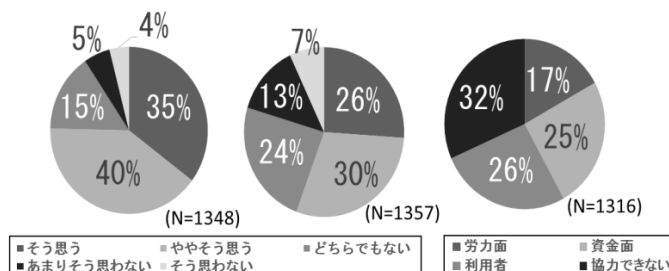


図1 危機感の有無 図2 必要性の有無 図3 協力意識

約6割であった。この結果には、コミバスの必要性を感じ、維持が危機的状況にあることを認識はしているが、自治会輸送とまではまだ考えていない状況が伺える。また、コミバス利用者が少ない状況にあっても、何らかの形で協力できる者は約7割であり、将来における「自治会輸送」の可能性を示唆しているものといえる。そして、協力意識の有無には自分が利用しているか否かではなく、地域のためといった意識が関係していることが考えられる。

4. 協力意識に与える影響要因の分析

地域住民によって運行される自治会輸送の実現を可能とするには、住民の協力と自主的な行動が必要不可欠である。そこで本研究では、「自治会輸送において協力できそうなこと」という項目に影響を与える要因につ

キーワード 公共交通, 自治会輸送, 住民協力

連絡先 〒690-8518 島根県松江市西生馬町14-4 松江工業高等専門学校 環境・建設工学科

TEL 0852-36-5262

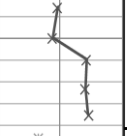
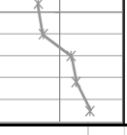
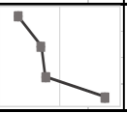
説明変数	カテゴリー	度数	カテゴリスコア	-1.0 0 1.0	レンジ	偏相関係数
地域活動への積極性	1. そう思う	120	-0.441		1.21	0.141
	2. ややそう思う	310	-0.260			
	3. どちらでもない	465	0.0761			
	4. あまりそう思わない	166	0.255			
	5. そう思わない	73	0.766			
今後も住んでいる地域に住み続けたい	1. そう思う	539	0.0633		0.430	0.0941
	2. ややそう思う	258	-0.261			
	3. どちらでもない	210	0.112			
	4. あまりそう思わない	76	0.169			
	5. そう思わない	51	-0.0598			
自分や家族にとってのコミバスの必要性	1. そう思う	394	-0.191		0.405	0.0962
	2. ややそう思う	247	0.162			
	3. どちらでもない	233	-0.0103			
	4. あまりそう思わない	126	0.0711			
	5. そう思わない	134	0.214			
地域にとってのコミバスの必要性	1. そう思う	634	-0.0809		1.16	0.215
	2. ややそう思う	344	-0.239			
	3. どちらでもない	98	0.850			
	4. あまりそう思わない	30	0.807			
	5. そう思わない	28	0.924			
自治会輸送の可能性	1. そう思う	191	-0.695		1.68	0.349
	2. ややそう思う	346	-0.534			
	3. どちらでもない	322	0.364			
	4. あまりそう思わない	157	0.538			
	5. そう思わない	118	0.981			
被説明変数	カテゴリー	度数	カテゴリスコア	-1.0 0 1.0	判別率	相関比
自治会輸送において協力できそうなこと	1. 運転手または事務局として協力できる	198	-0.673		43.6	0.296
	2. 資金面で協力できる	295	-0.287			
	3. 利用者として協力できる	274	-0.215			
	4. 協力できない	367	0.754			

図 4 数量化理論Ⅱ類による分析結果 (N=1134)

いて数量化理論Ⅱ類によって分析を行った。「自治会輸送において協力できそうなこと」を被説明変数、「コミバスの利用頻度」、「地域活動に積極的に参加したいか」、「今後も住んでいる地域に住み続けたいか」、「地域への誇りや愛着はあるか」等を含む計 12 項目を説明変数とした。分析結果として、相関比は 0.296 で判別率は 43.6%となっており、相関係数またはレンジを用いた分析が可能である。図 4 は、偏相関係数が高い上位 5 位までを示したものである。

図 4 より、偏相関係数の高い「自治会輸送の可能性」、「地域にとってのコミバスの必要性」、「地域活動への積極性」がとくに協力意識に強く影響を与えている項目であることがわかる。そして、「コミバスの利用頻度」や「自分や家族にとってのコミバスの必要性」が上位に入っていないことから、協力意識のある者は、自分や家族の生活のためというよりも、自分の住む地域が必要としていることを認識し、住みよい地域づくりのために貢献したいと考えることが影響しているといえる。また、地域への誇りや愛着の有無は協力意識にあまり影響しないことがわかった。

5. まとめ

自治会輸送への協力意識には、自分達の置かれている状況を認識し、地域にとってのコミバスの必要性や可能性を意識することが必要であることがわかった。そして、より協力意識を向上させるには、地域活動への積極的な参加を促すことが重要であるといえる。今後は、自治会輸送そのものの認識を高めるための効果的な手段の検討を行う必要があると考えている。

参考文献

- 1) 田中寛敬, 浅田純作, 板垣早香: 松江市郊外部でのコミュニティバスのデマンド運行に関する意識調査, 第 65 回土木学会中国支部研究発表会, 概要集Ⅳ-4, 2013